

本事例の基礎データ

カテゴリ	ICT 及び先端技術を活用した指導方法		
学校種	中学校	事例提供者	墨田区立錦糸中学校
学年	3年生	教科等	社会科
単元名	終章 私たちが未来の社会を築く		
主な ICT 機器	<ul style="list-style-type: none"> ・ iPad (キーボード付き iOS 機/一人1台) ・ ノートパソコン ・ 電子黒板 		
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ ディベートを通して、SDGs を学び、論理的思考を養う。 ・ 自校と交流校の中で、それぞれ賛成派、反対派に別れ、両校の賛成派グループのチームと反対派グループのチームがディベートを行う。 ・ 学校間交流で他校の生徒との交流を通して、多面的・多角的な視点と表現力を身に付ける。 		
「情報活用能力 #東京モデル」の位置付け	情報活用	STEP 4	<ul style="list-style-type: none"> ・ できるだけ多くの事実や確たる根拠に基づき、客観的に分析・判断できる ・ 目的に応じて収集した資料を多角的に考察し、新たな意味を見いだせる

本事例における教育の情報化について

【ポイント1】	ビデオ会議システム(Microsoft Teams)の活用 賛成派、反対派で教室を分け、両校の賛成派グループ同士、反対派グループ同士のそれぞれが、オンラインで話し合いやすい環境を準備した。
【ポイント2】	ロイロノート・スクールによる情報共有 ロイロノート・スクールを活用することで、生徒が作成した資料を両校の生徒同士で簡単にやりとりできるようにした。
【ポイント3】	ロイロノート・スクールによる画面共有 ロイロノート・スクールを活用することで、教員が提示する資料や生徒が作成した資料等を、交流校の生徒1人一台のタブレット端末に提示できるようにした。

本時の流れ

段階	● 主な学習活動・生徒の活動	○ 支援・留意点 ☆ 評価						
導入	<ul style="list-style-type: none"> ● お互いの中学校の自己紹介をする。 ● 本日の授業の流れとディベートについての説明を聞く。 ● 役割分担をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ロイロノート・スクールのカードを配信し、交流校と画面共有を行いながら説明する。……………【ポイント3】 ○ 賛成派、反対派、審査員の三つのグループに分ける。 						
展開	<div style="border: 2px solid red; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> テーマ「レジ袋を無料に戻すべきである。賛成か。反対か。」 </div> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%; text-align: center;">賛成派</th> <th style="width: 33%; text-align: center;">反対派</th> <th style="width: 33%; text-align: center;">審査員</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ● テーマについて、個人で考える。 ● グループごとに作戦会議をする。 </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ● 公正・公平な立場で、審査できるようにタブレットを使って、判断材料の準備をする。 </td> <td style="vertical-align: top;"> <ul style="list-style-type: none"> ● タブレット端末を使い、調査する。 ● 根拠・証拠の提示の際の資料を作成する。 ● 発表者を決定する。 </td> </tr> </tbody> </table>	賛成派	反対派	審査員	<ul style="list-style-type: none"> ● テーマについて、個人で考える。 ● グループごとに作戦会議をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 公正・公平な立場で、審査できるようにタブレットを使って、判断材料の準備をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● タブレット端末を使い、調査する。 ● 根拠・証拠の提示の際の資料を作成する。 ● 発表者を決定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれの教室に移動する。 ○ 両校のグループごとに、交流校とオンラインで繋ぐ。……………【ポイント1】 ○ 両校のグループごとに話し合い、役割分担をして、タブレット端末で調査をするよう指示する。 ○ それぞれの立場ごとに、提出箱を作成し、必要な情報を共有するように伝える。……………【ポイント2】 ○ 作成したカードは、提出箱に提出するように指示する。……………【ポイント2】 ○ 時間内であれば発表者は何人でもよいことを伝える。 ☆ 確かな根拠・証拠をもって、さまざまな立場から多面的・多角的に考察し、自分の意見を記述することができる。 (ワークシートの記述)
賛成派	反対派	審査員						
<ul style="list-style-type: none"> ● テーマについて、個人で考える。 ● グループごとに作戦会議をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 公正・公平な立場で、審査できるようにタブレットを使って、判断材料の準備をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● タブレット端末を使い、調査する。 ● 根拠・証拠の提示の際の資料を作成する。 ● 発表者を決定する。 						

ディベートを通して、SDGs を学び、論理的思考を養おう。

- 賛成派がスピーチをする。
- 反対派が賛成派に質疑をする。
- 反対派がスピーチをする。
- 反対派が賛成派に質疑をする。
- グループごとに作戦会議をする。

賛成派	反対派	審査員
<ul style="list-style-type: none"> ・最終弁論に向けて、作戦会議をする。 ・最終弁論の発表者を決定する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・賛成派、反対派それぞれの立場のスピーチを振り返り、これまでの根拠・証拠について、整理し、情報を共有する。

- 賛成派が最終スピーチをする。
- 反対派が最終スピーチをする。
- 審査員が勝敗の判定を行う。
- 審査員から勝敗判定の理由を発表する。

- ・ロイロノート・スクールで画面共有を行う。……………【ポイント3】
- ・メモをしながら、話を聞くように指示する。
- ・グループごとの教室に移動する。

- ・それぞれの立場のスピーチを聞き、最終弁論の内容を相談するように伝える。
- ・時間内であれば発表者は何人でもよいことを伝える。

- 多数決で判定する。

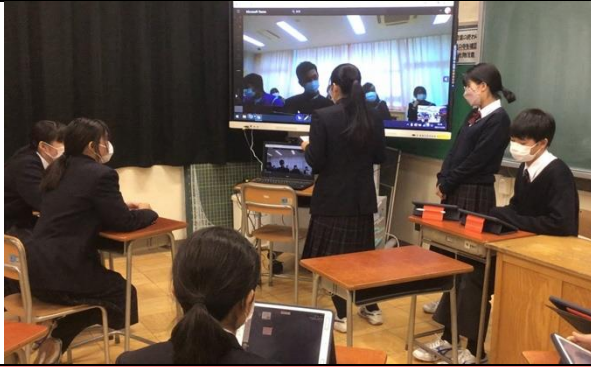
ま
と
め

- 本時の振り返りを行う。

- ロイロノート・スクールで、カードを配信し、提出箱に提出するように指示する。……………【ポイント2】

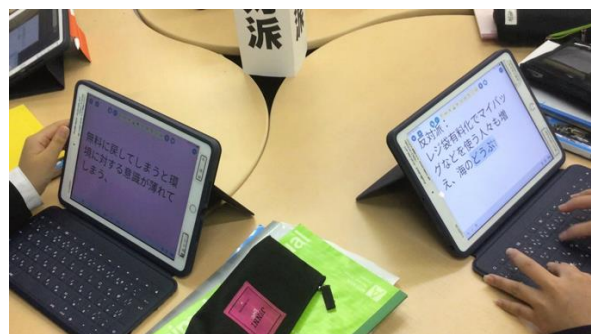
授業の実際

【ポイント1】 ●ビデオ会議システム(Microsoft Teams)の活用



交流校とディベートを行うために、一つの教室だけでなく、両校の3教室をオンラインで繋いで、グループごとに話し合いを行うことで、より深い交流が可能になった。

【ポイント2】 ●ロイロノート・スクールによる情報共有



生徒はロイロノート・スクールのカードに意見や必要な情報をまとめた。そのカードを提出箱に提出し、共有することで、両校の生徒同士で簡単にやりとりすることができ、情報共有が容易になった。

【ポイント3】 ●ロイロノート・スクールによる画面共有



電子黒板をオンラインでつなぐことにより、生徒1人一台のタブレット端末に提示資料や生徒が作成した資料等を両校で画面共有をすることができた。

今後に向けて

- オンラインの話し合いに慣れるまで時間がかかるため、一度の交流で終わらせず継続的に続けることで、同じ学校の生徒同士では学ぶことができない、オンラインにおける対話的な学びの実現を図る。
- 学校同士の交流だけでなく、ゲストティーチャーなども加えたオンライン交流授業を行い、より深い学びを実現していく。